



第一話 キーワードが見つからない

ウェブ検索をした人は、例外なく、「探している情報が見つけれなかった」という経験を持っている。多くの人は、うまい方法が見つからず、同じことを繰り返している。インターネットは情報の宝庫なのに、ウェブ上に存在するはずの資料が入手出来ないのは、イライラする。

ウェブ検索は、何故、うまくいかないのか。インターネットという「宝の山に入りて空しく帰る」を、解消するにはどうしたらよいか。このシリーズでは、ウェブ検索の向上に少しでも役立つ基本的な考え方や簡単な方法を提示していきたい。

第一回目のテーマは、「キーワード検索は簡単だ」という自分勝手な思い込みを捨てることである。この思い込みが間違いであることに気づくのに、時間はかからない。しかし、他にうまい方法が見つからない。

近い将来、検索エンジンが賢くなれば、この悩みは解消されると思っている人も少なくない。確かに、賢くなり、便利になった。しかし、甘い期待は捨てるべきである。検索エンジン任せでは、問題は解決しない。検索エンジンが進化しても、ウェブサイトも膨大化し複雑化しているからである。

検索者自身の知恵を働かせること、すなわち、検索者の創意工夫が「宝の山」に辿りつく一番の近道である。今回は、自分自身を知ることの重要性を指摘したい。まずは、「キーワード検索は、実は難しいのだ」ということを、読者に理解してもらおう。

特に今回は、誰もが経験する次の三つの悩みについて説明しよう。「キーワードが思い出せない」、「キーワードを知らない」、「キーワードが分らない」の三つである。

最初の「キーワードが思い出せない」とは、「頭の中で思いつくキーワード」を頼りに、検索する行為を指している。多くの人は、パソコン画面を前に、頭のなかでキーワードを思い浮かべながら、ウェブ検索をしている。

自分の記憶の中からキーワードを見つけるのは、なかなか大変な作業である。人間だれでも、その場で思いつくキーワードの数は、たかが知れている。いくつかの簡単なキーワードを思い起こせても、すぐに枯渇してしまい、天を仰ぐことになってしまう。

ウェブ検索の基本は、自分の記憶を頼りにしてはいけない。検索する際は、手許に資料を置き、その中からキーワードを見つける。単行本や新書、新聞や雑誌、チラシやパンフレットなど、参考になる資料を手許において、検索を始めるべきである。

実際には、手許に資料がない場合も少なくない。この場合は、とりあえず検索されたウェブ・コンテンツの内から、次のキーワードを探すことである。ウェブ・コンテンツの内容は、検索に

役立つキーワードの宝庫といってよい。

次に、「キーワードを知らない」とは、普段自分が使用する日常語以外の言葉や用語の正確な名称(キーワード)を、知らないことを指す。

我々は高度情報化社会に住んでおり、膨大な言葉の海の中で生活している。次々と誕生する流行語、難解な専門用語、多種多様な新商品の名称などなど、テレビや情報誌には、これらの用語が氾濫している。

しかも、現在、政治・経済・社会は、激動期の渦中にある。国家の分裂から市町村の統廃合、官公庁の再編から企業の統廃合、技術革新やグローバル化による革新的な新製品の登場などなど。これに付随して、これらの名称や用語も新しくなる。

ウェブ検索では、正確な名称を用いて検索することが、求めるサイトに辿りつく近道である。わからない用語は、前述の手掛かりになる資料を頼りにするか、ウェブ上の事典を調べるか、日常語や一般語の組み合わせ検索で見つけることが必要となる。

検索の素人は、ウェブ・コンテンツを直接見つけようとしている。我々が最初にすべきは、「コンテンツ本体」を探すより前に、「適切なキーワード」を見つけることである。

検索の基本は、「コンテンツの内容」を最初から探す直接法ではなく、「コンテンツの手掛かり」を、先に見つける間接法を採用すべきである。

知らないキーワードを探すために、筆者が日頃良く利用するサイトは、ウィキペディア、KOTOBANK、マイペディアといった無料百科事典を始めとする事典・辞書サイトである。

また、調べたい用語によるが、図書館、官公庁、業界団体のサイトに、専門用語名を調べに行くことも有効である。

もちろん、これらのサイトだけで、正確なキーワード見つけられる訳ではない。この他の探し方については、次回以降で紹介していくことにしたい。

最後に、「キーワードが分らない」とは、自分の知らない領域の事柄を調べようとする場合、どんな「キーワード」で検索すればよいか分らないことを指す。当たり前であるが、未知の領域を調べる場合は、どんな用語が用いられているか見当がつかない。

これについて簡単でうまい解決方法はない。まずは、「良く知らない領域」に関する手掛かりをみつける工夫をしなければならない。このためには、その領域に関して記述しているような機関、組織、人物、サイト(メディアやブログ他)に見当をつけて、そこでの解説を、まず入手することである。

もちろん、マスコミが大きく取り上げる事故や事件などの事柄について、最初の手掛かりを見つけることは難しくはない。最初に使用するキーワードは簡単に分かるし、ウェブサイトでの関連記事も、爆発的に増えるからである。

たとえば、新型インフルエンザや鳥インフルエンザである。マスコミ関係のサイトの他に、厚生労働省、自治体、保険所などの役所サイト(情報源)にアクセスすれば、とりあえず、第一段階の資料は入手できる。

難しいのは、この後である。問題や事件の発生当初、正確かつ詳しい情報は、医療関係機関でも持っていない。事件の進展を待たなければならない。しかし、マスコミは、時間の経過につれ報道しなくなる。社会の関心も薄れ、ウェブ上の記事も急速に減る。

本稿の関心事は、「知らない領域に関する手掛かりを探すには、どうしたらよいか」にある。次回以降、この点に留意して、少しでも良い方法を提示していきたい。